

平成 24 年 10 月 1 日
鉄道局安全・業務政策室

「鉄道の日」実行委員会による第 11 回「日本鉄道賞」の受賞者の決定について

「日本鉄道賞」は、「鉄道の日」創設の趣旨である鉄道に対する国民の理解と関心をさらに深めるとともに、鉄道の今後一層の発展を期することを目的として、平成 14 年に創設された表彰制度であります。「鉄道の日」実行委員会の日本鉄道賞表彰選考委員会による選考の方法、選考の結果は以下のとおりです。

なお、受賞者の表彰式は、10 月 15 日（月）の第 19 回「鉄道の日」記念祝賀会（於：ホテルグランパシフィック LE DAIBA）において行う予定です。

1. 選考の方法

第 11 回日本鉄道賞の選考は、家田仁東京大学大学院教授を委員長とする表彰選考委員会（委員：8 名）によって次の手順を経て行われました。

まず、各応募案件（計 29 件）の応募書類を各委員が精読して評点し、評点の合計値が高位のものから計 8 件をヒアリング対象案件としてスクリーニングしました。

次に案件毎に応募者よりヒアリングと質疑を行い、改めて各委員が評点しました。その際には、総合的な視点から見て極めて優れたものと、特定の視点からみて優れたもの、の 2 つの視点から評価しました。各委員の評点の合計値が高かったものについて、委員間でさらに深く議論の上、日本鉄道賞 1 件、特別表彰 2 件を選考しました。

【日本鉄道賞表彰選考委員会】（50 音順 敬称略）

	安部 順一（読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員）
委員長	家田 仁（東京大学大学院工学系研究科教授）
	木場 弘子（キャスター、千葉大学教育学部特命教授）
	須田 義大（東京大学生産技術研究所教授）
	瀧口 敬二（国土交通省鉄道局長、「鉄道の日」実行委員会副会長）
	茶木 環（ライター）
	浪瀬 佳子（交通まちづくりの広場～人と環境にやさしい交通をめざす協議会～運営委員）
	松本 浩司（日本放送協会解説委員）

2. 選考の結果及び選考理由

【日本鉄道賞】

◎東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区）

「国指定重要文化財である丸の内駅舎を創建当時の姿に復原します。」

（選考理由）

大正3年に竣工した東京駅丸の内駅舎は、わが国の駅舎建築の古典的金字塔であるのみならず、繊細さを併せ持ったそのシンメトリックな巨姿は世界でも屈指の「美駅」であった。今、太平洋戦争末期の東京大空襲によって破壊された3階部分や南北のドームが復原され、本来の姿を取り戻した丸の内駅舎は、首都東京に新たな魅力的名所をもたらすこととなった。この復原事業は、国民として誇りうる優れた文化的遺産を後世に引き継ぐという意味で極めて大きな意味をもつ。しかし、そればかりでなく、①最新の地盤工学や構造工学の技術を駆使して実現した耐震上の画期的改良、②現代社会にふさわしい空間と新たな機能の創造的付加、③駅舎の上空空間の利用権を周辺地域に移転売却することによって同事業を財務的に実行可能にした官民関係者の都市計画制度上の柔軟な工夫力、の諸点から見ても注目に値する。総合的に見て、まさにわが国鉄道の歴史に長く記録されるべき事業といえよう。よって、ここに第11回日本鉄道賞を授与するものである。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別表彰 「鉄人」特別賞】

◎原鉄道模型博物館（神奈川県横浜市）

「日本の鉄道の発祥の地、横浜に世界最大級の鉄道模型博物館オープン!!」

（選考理由）

世界的に著名な鉄道模型製作者・収集家である原信太郎氏の約80年にわたる膨大なコレクションは、国内外の鉄道の技術・文化・歴史を物語る重要な役目を果たしている。実際の鉄道走行機能を再現した精巧なジオラマ製作をはじめ、原氏の鉄道にかける情熱と生き様は感動的であり、展示に工夫を凝らしてそれを具現化したこの博物館はまさに“鉄人”による知的創造の情報発信地と言える。

今年7月に日本鉄道発祥の地・横浜に開館後、わずか55日で来場者数10万人を達成した。鉄道愛好者や鉄道模型ファンの枠を超えて、一般にも鉄道の素晴らしさ

や楽しさを広く伝え、鉄道愛に共感を呼んでいる点に評価が集まり、今後の展開にも期待が寄せられる。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別表彰 「蘇ったレール」 特別賞】

◎NPO法人 神岡・町づくりネットワーク（岐阜県飛騨市）

「廃線を抱えた田舎町の遊びゴコロ「自転車とレールで風になる」レールマウンテンバイク・ガッタンゴー」

（選考理由）

レールマウンテンバイクが評価されたのはまず「独自性とユニークさ」だ。地元の人々のアイデアから生まれ、バイクは地元鉄工所・木工所の手作り。宣伝費はパンフレット代の8万円しかかけていないが、ユニークさが受けて利用者は年々増加し「黒字営業」を続けている。また「困難を乗り越えた」実績も大きい。鉄路を生かし新たな観光資源つまり地域の新たな財産を創出したことで全国から見学も相次いでいる。そして何より選考委員に共感を与えたのは「レールを残したい」という鉄道への深い思いが原点になったという点だ。全線廃止になった鉄道に係る取り組みが「鉄道賞」を受けるのは異例だが、これら先進性に加え、鉄道が地域の人たちにとっていかに重い存在であるかを訴えているからだ。



連絡先：国土交通省鉄道局安全・業務政策室

宇佐美、原澤、秋元、高石

代表：03-5253-8111（内線：40624、40633）

直通：03-5253-8542 FAX：03-5253-1633